

一生に一度で安心 C型肝炎の検査を受けよう

そのまま放っておくと肝硬変や肝臓がんに進行する恐れがあるC型肝炎。その治療法や今秋開発された新薬について、本県の肝疾患診療連携拠点病院の一つである順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科の玄田拓哉先任准教授に聞きました。

〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉



玄田 拓哉 先任准教授

肝臓は「沈黙の臓器」

A型からE型まである肝炎の中でも慢性化しやすく、放置しおくと肝硬変や肝臓がんを引き起こす可能性が高いのがC型肝炎です。日本人の約40人に1人が感染していると推測される国内最大のウイルス性感染症で、50代以上に多く見られます。主に血液を介して感染するため、C型肝炎ウイルスが発見された1989年以前の輸血や医療行為などで感染する可能性がありますが、その多くは感染源が不明です。

肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、特にC型のような慢性肝炎の場合は感染していても自覚症状がほとんどありません。気付いた頃には肝硬変や肝臓がんなど重篤な状態という場合が多いので、早期発見・早期治療を行うためにも検診を強く薦めています。

陽性でも 内服薬で治療率95%

C型肝炎に感染しているかどうかは血液検査で調べられます。「肝炎ウイルス検診」といって、数時間後には結果が分かる負担費用も少ない簡単なものです。血液検査の結果「HCV抗体」の項目を見れば、C型肝炎感染の可能性を知ることができ、陰性であれば今後検診を受ける必要はありません。項目が空であれば未検診ということなので、医療機関にかかりましょう。陽性の場合にはC型肝炎の可能性がありますが、たとえ感染していても、3カ月間薬を飲めば95%以上と非常に高い確率で治療するので安心してください。

「肝炎ウイルス検診」を受ける以外にC型肝炎感染の有無を調べる方法はありません。しかし、一般の検診ではHCV抗体は必ずしも含まれていないため、軽い肝機能異常があっても20年ほ

肝疾患に関する相談・問い合わせ

順天堂大学医学部附属静岡病院
「肝疾患相談支援センター」

[住所]伊豆の国市長岡1129
[電話]055(948)5168
(※受付時間10～16時、土日祝・年末年始を除く)

浜松医科大学医学部附属病院
「肝疾患連携相談室」

[住所]浜松市東区半田山1-20-1
[電話]053(435)2476
(※受付時間9～16時、土日祝・年末年始を除く)

ど放置し、仕事を退職して病院に来たときには肝臓がんだったという事例があるほど、検診で初めて感染が発覚し治療に結びついたという例はとて少ないのが現状です。40～50代の人は毎日の忙しさや自覚症状がないことから、病院で検診・再検査を受ける人が少ないのです。C型肝炎はこれから新しく感染する可能性がほぼゼロに近い感染症なので、一生に一度検査を受けて陰性であれば、その後ずっと安心できるのが大きな特徴。時間や手間を惜しまず、医療機関に足を運んでほしいと思います。

新薬登場 より効率のよい効果期待

今秋、C型肝炎の新薬が開発され、慢性肝炎では薬の服用期間が2カ月間に短縮される予定です。最近では3カ月でしたが、以前は半年、さらに昔は1年半注射を打ち続ける必要があったことを踏まえると大きな進歩です。さらに、1型と2型があるC型肝炎のどちらの型にも効くようになり、1回目の飲み薬の治療で効果を得られなかった人にも、再治療として効果が期待できます。患者が負担する実際の薬代は、国・県からの助成金により多くの場合が1カ月に1万円ほど。副作用の例もほとんどなく短い期間で治療するので、お金や時間、身体的な負担もかかると誤解している方は認識を変えてほしいと思います。

名前が違ってても、「肝炎ウイルス検診」の意味合いは肝臓がんを予防するための「がん検診」と同じです。「C型肝炎であること」を発見さえできれば、薬を飲めば必ず治る「病気なので、検診を受けないことで状態が進行してしまうのは非常にもったいないと感じています。その後の人生を安心して過ごすためにも、一生に一度、若いうちに検診を受けていただきたいですね。